

平成九年

バスケットボール部創設五十周年記念誌

題字 第八代学長 増原健二先生

# 闘魂

奈良県立医科大学  
バスケットボール部

栄光の輝きの歴史

# 栄光の輝き



第14回大会  
優勝  
昭和37年 熊本



第15回大会  
優勝  
昭和38年 金沢



第18回大会  
優勝  
昭和41年 京都



第19回大会  
優勝  
昭和42年 長崎



第16回大会  
3位  
昭和39年 神戸



第15回  
王座出場記念  
昭和38年 大阪



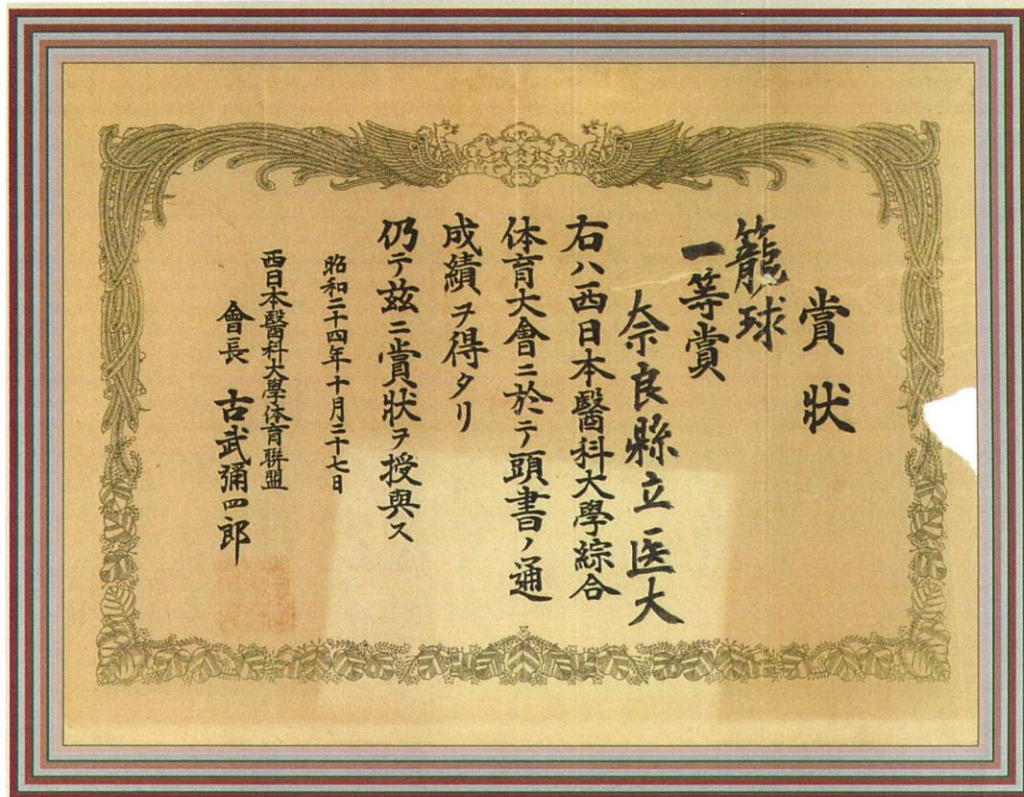
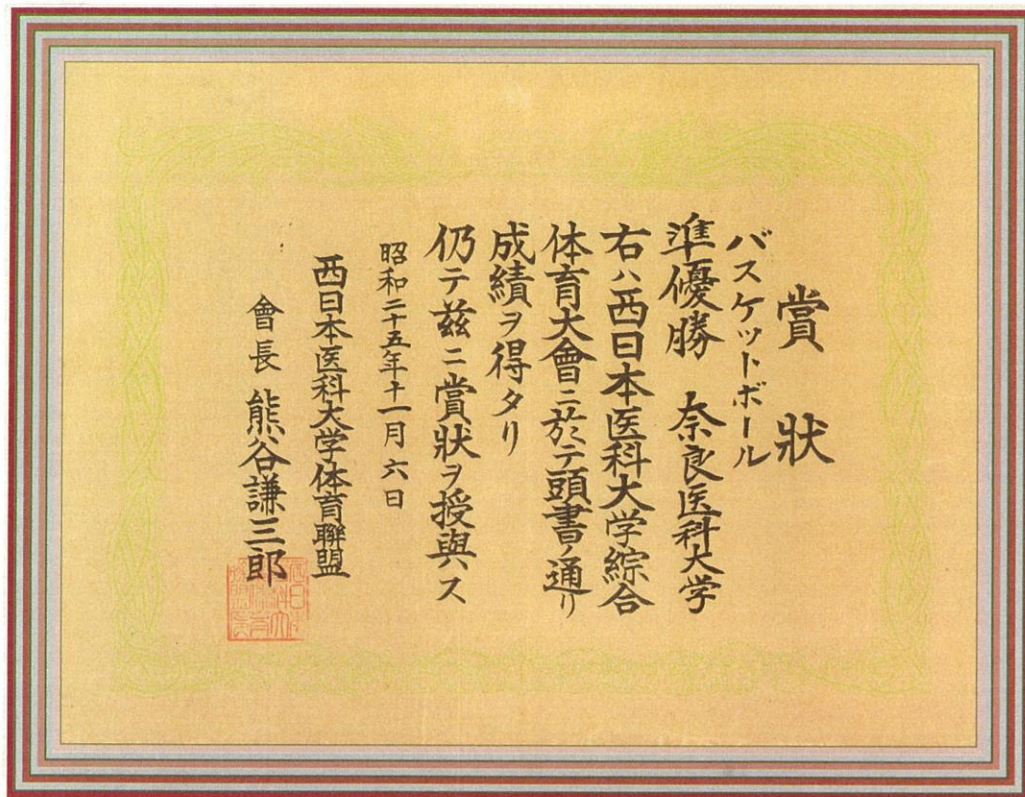
第16回大会  
王座出場記念  
昭和41年 徳島



奈良医大バスケットボール部OB会発足式 平成元年7月2日 於 大阪駅前第一ビル北京



第2回斎藤杯 平成3年2月16日 於 大阪厚生年金病院体育館



▶ 解説 ◀

セピア色のこの表彰状は第2回大会のものである。昭和25年以降、この大会は西日本各地の医学部の共鳴を呼び、ますます熱気と感動を伴って発展を遂げることとなる。

戦後の混乱期の中で、文武両道の精神で練習に明け暮れ活躍された諸先輩の偉業にあらためて賞賛を送るものがあります。

▶ 解説 ◀

昭和20年4月、奈良県立医学専門学校が設立され、学制改革により新制の奈良県立医科大学が開設された昭和27年4月当時、我々の先輩達は既にバスケットボールに親しんでいた。

この表彰状は、第1回西日本医学生体育大会に優勝した時のものである。昭和24年当時のメンバーは、東浦 三郎、(故)石井 康雄、(故)倉田 陽太郎、(故)瀬口 悦司、吉本 恵則、高岡 孝一、阿部 圭助、足立 登、美並 義博、吉岡 諄二、横山 皓、福岡 衛、土井 利方、東野 和男、今泉 健二郎の諸先生である。

部の定礎となっていたいただいたこの偉大なる諸先輩に感謝致します。

# 奈良医大新聞

発行所 奈良県橿原市 奈良県立医科大学 新聞部

御手許の現金は、近くて便利な 南都銀行 橿原支店

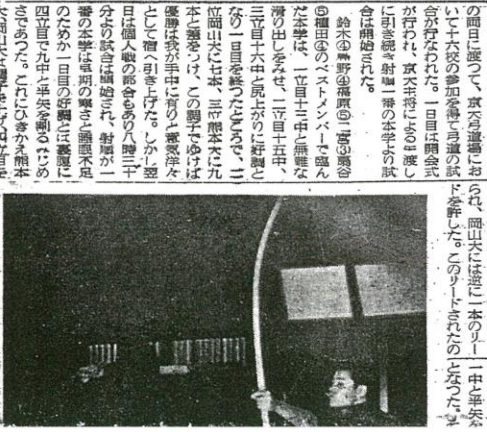
一射差の勝利(団体) 植田④個人戦三位

## 第18回西医体

# 総合七位に躍進

第十八回西日本医科学生総合体育大会秋期大会は、京都ブロッコ主管のもとで、十月十五日から二十二日までの八日間行なわれ、京都を中心として、大阪、大津に集った医学生は約五千人。運営上一度に集うことはなかつたが、厳しい勝負を通じて各地で親善の花が咲いていた。

女子が五位、ラリーが六位、それに冬期大会スキー四位等、各種目での活躍がめざましく、総合七位に進出した。なお総合優勝は岡山大、二位は久留米大、三位は九州大であった。



(同)



# 輝く優 バスケット・弓道

## 三年目の栄光

バスケット部は、今年も大活躍をみせ、総合七位に躍進した。男子部は、京都ブロッコ主管のもとで、大阪、大津に集った医学生は約五千人。運営上一度に集うことはなかつたが、厳しい勝負を通じて各地で親善の花が咲いていた。

無念残念五位 昨年の大会で五位に終わったバスケット部は、今年も大活躍をみせ、総合七位に躍進した。男子部は、京都ブロッコ主管のもとで、大阪、大津に集った医学生は約五千人。運営上一度に集うことはなかつたが、厳しい勝負を通じて各地で親善の花が咲いていた。

# 待望の教授誕生

## 第二生理 榎教授(二十九年卒)

昨年開学二十周年を迎え、成長期に入った本学に待望の本学同窓生による教授が誕生した。十月十一日に開かれた教授会の席において、前第二生理学教室中馬教授の後任として、同教室援務助教(二十九年卒)が選出され、十一月一日付で知事の辞令が発令された。今回の教授会審査委員会(委員長・鎌倉第一生理教授)では東大より一名、東京医歯大より一人、それに援助教授の三人が候補にあがった。他大学の優れた候補をおさえ、新しく教授になられた榎先生は、本学卒業生として、第二生理学教室の流れをくむ人として、今後の活躍が期待される。



(優勝杯をかざすバスケット部員)

昭和41年 西医体 優勝記念 於 京都



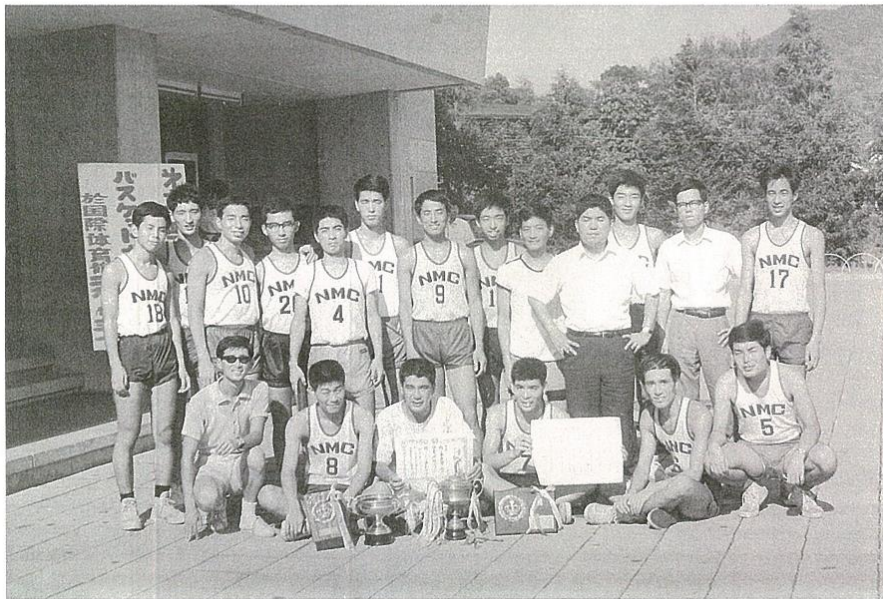
昭和58年 第35回 西医体 於 岐阜



昭和59年 第36回 西医体 於 神戸



昭和42年 西医体 優勝 於 長崎国際体育館



昭和60年 第37回 西医体 於 松山



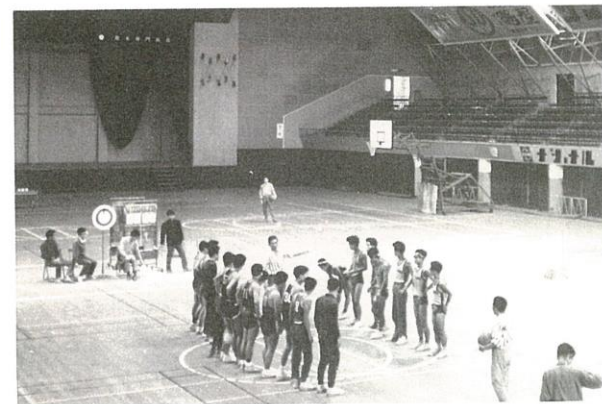
昭和61年 第38回 西医体 於 福井



昭和37年 第14回 西医体・決勝戦 於 熊本



試合終了後



西医体優勝 胴上げ(土井 利方先生)



高等看護学校裏コート

昭和35年 西医体 於 広島



昭和35年 高田市民体育館



これが最も古いメンバーの集合写真



上段左から、井 秩章 東野 和男 足立 登 (故)倉田 陽太郎 (故)瀬口 悦司  
マネージャー・田北(荒木)順子 高岡孝一  
下段左から、阿部 圭助 (故)石井康雄 不明 土井 利方

昭和28年 西日本学生(大阪府立体育館)



西日本学生バスケットボール選手権大会

上段左から、美並 義博 (故)倉田 陽太郎 土井 利方 横山 皓 東野 和男  
下段左から 吉岡 諱一 福岡 衛 部長・山本 教授 阿部 圭助 高岡 孝一

女子部創設の頃



平成5年 6月6日 石神杯



# 斎藤杯 (対和歌山医大OB:定期戦)

# Saito Cup



和歌山医大OBとの対抗戦は、平成2年に和歌山医大OBの(故)斎藤教授のバスケットボールに対する情熱を賛える意味で、両校OB会が協力し実現した。以後、定期戦を行い親睦をはかっている。第1回大会は平成2年7月、和医大紀伊分校で、第2回は平成3年2月奈医大OB会主催で、大阪厚生年金病院体育館で挙行しそれ以後、交互に主催している。





# 対現役OB戦

毎年、春の新入生歓迎コンパ、秋の追い出しコンパに先立って、現役とのOB戦が行われることが恒例となっている。試合後ユニフォーム姿のまま、橿原神宮の銭湯に連れだって汗を流しに行くのも恒例となっている。





# BASKETBALL CLUB



バスケット二連覇  
 昭和60年石神杯初参加、初優勝メンバー  
 (新宮監督を含めて)  
 その後61年、62年と3連覇

西医体は総合九位!  
 バスケット・バレーボール優勝

今回日本経済新聞社主催の西医学部大会(総合・バレー)の優勝大会は、多大の期待を寄せられ、15日(土)の夜、西医学部体育館で、激戦が行われた。結果は、西医学部が総合九位、バスケット・バレーは優勝を挙げた。バスケットは、11日(土)の決勝戦、西医学部対、東医学部戦で、西医学部が、111対101のスコアで、優勝を挙げた。



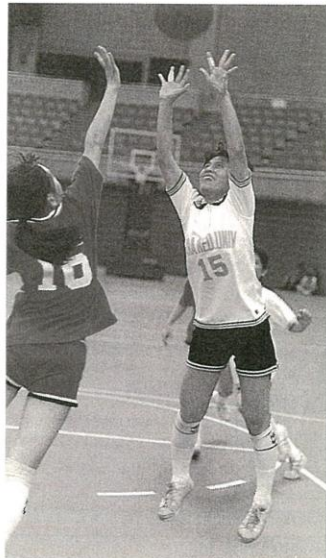
昭和60年 石神杯初参加、初優勝メンバー  
 (新宮監督を含めて)  
 その後61年、62年と3連覇



昭和61年 西医体初参加登録メンバー  
 左より、柄池 真規子(2年)  
 添田 いよう(4年)  
 大道 里奈(3年)  
 中川 弥生子(2年)  
 渡辺 陽子(1年)  
 川口 千春(1年)



平成5年 西日本女子バスケットボール大会  
 準優勝(和歌山にて)  
 京都府立医大との決勝戦。お互い良いライバルでした。



平成元年 西医体 (vs 島根医大) 於 名古屋  
 中河 いよう(旧姓 添田) 6年最後の西医体

バスケットボール部  
 創設50周年誌より抜粋  
 昭和48年卒緒方正雄氏提供